

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について

大石小学校

子供たちの学力を把握する目的で毎年実施されている全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。福井県は今年度も全国トップクラスの学力を維持していることはご承知のことと思います。この調査は学力の一部、学校における教育活動の一側面からのもので、子供たちを全体的に見ることができるものではありませんが、今後の「大石っ子」の生きる力を育むために、どうするとよいのかを考える機会にすることができます。今年度の大石小学校の子供たちの学びの様子はどうだったのかをお知らせします。

平均正答率で見た大石小学校と全国・県との比較

大石小学校		比較
国語	全国	○
	福井県	△
算数	全国	△
	福井県	△

(2019. 4.18 実施)

全国や県と比較し、本校の正答率が、
○…高い
□…ほぼ同じ
△…低い

教科別に見る大石っ子の様子

国語の傾向と対策

- 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることができています。
- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことができています。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問をしたり、自分の考えをまとめたりすることができています。
- △同音異義語などの漢字を書くことが苦手です。普段の学習の中で復習したり、はなまるテストを通して定着を図っていきます。
- △文と文との意味のつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書くことが苦手です。主語・述語の整った文になっているか確かめたり、接続詞を使って一文を二文に直したりして読みやすい文章が書けるように指導していきます。

算数の傾向と対策

- 図形についての基礎的な知識については、定着しつつあることが分かります。
- グラフから資料の特徴や傾向など基本的な情報を読み取ることはできています。
- △「図形」において、示された考えを解釈し、その求め方の説明を記述することが苦手です。文章から必要な情報を読み取り、条件に合うように式を立てたり、答えを求めたりする活動を指導していきます。
- △日常生活の事象について単位量あたりの大きさを基に考え、その理由を説明する力が不足しているようです。授業中に自分の考えを書く時間や説明し合う時間を多く設け、筋道が通っている説明になっているか、確認していきます。
- △「数と計算」では、計算しやすい式にして計算することがやや苦手です。普段の学習の中で、復習していきます。

生活習慣や学習習慣における大石っ子の様子

○朝食を毎日食べる児童の割合は、全国平均、県平均を上回っています。

△毎日同じぐらいの時間に寝たり起きたりしている児童の割合は全国平均、県平均を下回っています。

○家の人と学校での出来事について話している児童の割合は全国平均、県平均を大きく上回っています。

△学校の授業時間以外に、普段、1日当たり3時間以上勉強している児童（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）の割合（8.5%）は、県平均（6.1%）を上回っているものの、1時間以上2時間未満の割合は25.5%と県平均（42.5%）を下回り、30分以上1時間未満の割合が36.2%と県平均（24.1%）を上回っています。

○普段の読書時間の割合は、1日当たり2時間以上読書している割合は6.4%で、県平均（5.5%）を上回っています。30分以上1時間より少ない児童の割合が36.2%と一番多いです。全くしない児童の割合は4.3%と県平均（15.5%）を下回っています。

○読書がすきと答えた児童の割合は、55.3%と県平均（39.6%）を上回っています。

○新聞をほぼ毎日読んでいる児童の割合は14.9%で県平均（8.5%）を上回っていますが、週に1～3回程度読んでいる児童の割合は10%と県平均（17.5%）を下回っています。ほとんど読まないと答えた児童の割合は40.4%です。

△「自分には、よいところがある」に当てはまると答えた児童の割合は31.9%と県平均（43.9%）を下回っており、どちらかといえば当てはまると答えた児童の割合は48.9%です。どちらかといえば当てはまらないと答えた児童は12.8%（県平均11.7%）、当てはまらないと答えた児童は6.4%（県平均4.0%）と県平均を上回っています。